

スリランカ留学【医療ボランティア】

1. 活動時期 2024.7.21～8.4

高校2年 山地 瑚羽

2. 参加のきっかけ

吉岡秀人さんの『飛べない鳥たちへ-無償無給の国際医療ボランティア「ジャパンハート」の挑戦-』という本に出会ったことである。作者が医療器具は聴診器一本のみで医療環境が劣悪なミャンマーに行き、無医村の医療にかつてない影響を与えて貢献したことが記されており、そこで描かれている姿は、私に強い信念と行動する勇気があれば、社会に大いに役立つことができるということを教えてくれた。



3. 活動内容

スリランカのゴールにある Teaching Hospital Karapitiya で精神科、内科、耳鼻咽喉科、歯科、救急病棟、小児科、発熱外来を視察した。その他に、基礎ヘルスケアを提供する医療キャンプを行い、水銀血圧計による血圧の測定、血糖値の測定をし、簡単なカルテを書いた。安全に医療提供を行うためにセミナーを受けて実践を繰り返した後に、老人ホームや町の施設に出向き、実際に住民に対して測定を行った。自動測定器の普及が遅れており、血糖値はある程度の太さがある針を指に指し、血液を採取して機械に入れ込むという方法で測定した。また、火傷と出血の応急処置について説明したポスターを作成し、学校に配布しに行く活動やビーチクリーン活動も行った。

4. 参加した感想

①参加する前と後の変化

今回の活動を通じて自身に積極性が身についたと感じる。看護師は英語が通じず、医者は英語が話せるが人数が少なく常に忙しそうにしていたため、基本的には見学しかできない状況であった。そこで、一つでも多い学びを得ようと、合間を縫って医師に質問したり、研修を行なっている世界中からの医療学生に説明を求める等、自ら積極的に話しかけることを心がけた。その結果、スリランカを含む発展途上国における医療の問題点や、医療機器の普及が遅れている中でどのような工夫が凝らされているかを知ることができた。ただ傍観しているだけでは学びに限界があったので、その状況から一歩踏み出せたことは私を成長させたと思う。

②活動中の面白かったポイント

手術中の患者の側にどれだけ近づいても良いと言われ、切開から縫合までを覗き込んで見たり、患者の死に立ち会うことができた等、医師の仕事のリアルな面を観察することができてとても興味深かった。また、活動拠点では世界各国からの医療学生が集まっており、医療学生を相手に講習を行っていた医師からの勧誘を受けて、急遽一緒に講習を受けることになった。その講習内で心肺蘇生法のレクチャーを受け、日本のやり方と相違点をたくさん見つけることができて面白さを感じた。



5. 今後参加する生徒に向けたアドバイス

私は新しいことに挑戦するのに躊躇することが多く、不安をたくさん募らせたまま留学しました。学校のプログラムではなく個人手配での留学であり、自身でなんとかしなければいけないという状況に沢山遭遇しましたが、人目を気にする必要がなかったため、驚くべきほどにその状況を楽しめました。留学するのに不安要素を抱えて躊躇している人もいますが、そういう人にこそ個人手配で1番自分の興味に合ったプログラムを見つけるという選択肢もあることを伝えたいです。